

防

災

人

みえ防災塾

さきもり応用コース

さきもり基礎コース

平成29年度
履修要綱



■ さきもり応用コース

■ さきもり基礎コース

目 次

1. 履修方法	2
1.1 カリキュラムの構成	
1.2 科目の基準	
1.3 成績評価	
1.4 成績評価に対する照会と申立手続きについて	
1.5 修了要件（必要科目数）	
2. 受講に係る留意事項	5
2.1 テキスト代等その他の費用	
2.2 休講及び教室変更	
2.3 補講の方法	
2.4 呼び出し等	
2.5 授業時の注意	
2.6 受講の停止	
2.7 損害賠償	
2.8 附属施設の利用	
2.9 通学方法	
2.10 休日等の校舎への立ち入り	
2.11 その他	
3. 教育課程表	7
3.1 さきもり応用コース、さきもり基礎コース科目	
3.2 開講スケジュール	
4. 教授要目	13
みえ防災塾の津波発令時の避難方法について	20
三重大学構内図・アクセス	21

本履修要綱は、三重県・三重大学 みえ防災・減災センター（以下、センターと表記）の事業として実施するみえ防災塾の2つのコース、「さきもり応用コース」、「さきもり基礎コース」の履修に必要な事項を示したものであり、主な内容は履修方法、受講に係る留意事項、教育課程表、教授要目です。

この履修要綱の内容をよく読んで理解するとともに、必要となった時は、これを参照して、履修に際して誤りのないように注意してください。

1. 履修方法

1.1 カリキュラムの構成

センターの事業として実施するみえ防災塾の2つのコース、「さきもり応用コース」、「さきもり基礎コース」のカリキュラムは、5つの科目と1つの集中セミナーから構成されています。また、各コースは定められた修了要件（必要取得科目数）に従って履修する必要があります。修了するためには、3章の表1（7ページ）に示す教育課程表の中から、定められた必要科目を履修する必要があります。

図1（4ページ）にカリキュラムの全体構成を示します。

図2（4ページ）に入塾から修了までに必要となる履修方法等の流れを示します。

「さきもり応用コース」を修了すると、修了証書、「三重のさきもり」認定証、学校教育法第105条に基づく履修証明書を交付します。（大学院生には「三重のさきもり」認定証を交付します）

「さきもり基礎コース」を修了すると、修了証書、「三重のさきもり補」認定証を交付します。

1.2 科目の基準

特論科目（科目名に“特論”と明示されている科目）	15時間で1科目
演習科目（科目名に“演習”と明示されている科目）	30時間で1科目
実習科目（科目名に“特別研究”と明示されている科目）	90時間で1科目

1.3 成績評価

履修した授業科目の成績は、AA・A・B・C・Dの評語で評価され、AA・A・B・Cを合格とします。

1.4 成績評価に対する照会と申立手続きについて

各科目の成績評価について疑問が生じた場合は、照会する事ができます。詳細については、工学部のホームページに記載してあります。

具体的な手続きについては、センター又は工学研究科チーム学務担当に問い合わせてください。(学務連絡先：TEL059-231-9469)

1.5 修了要件（必要科目数）

「さきもり応用コース」を修了するためには、1年以上在学し、指定の5科目の履修（さきもり特別研究による研究成果報告書の提出を含む）と集中セミナーを受講して、修了判定を受けなければなりません。

「さきもり基礎コース」を修了するためには、指定の2科目の履修と集中セミナーを受講して、修了判定を受けなければなりません。

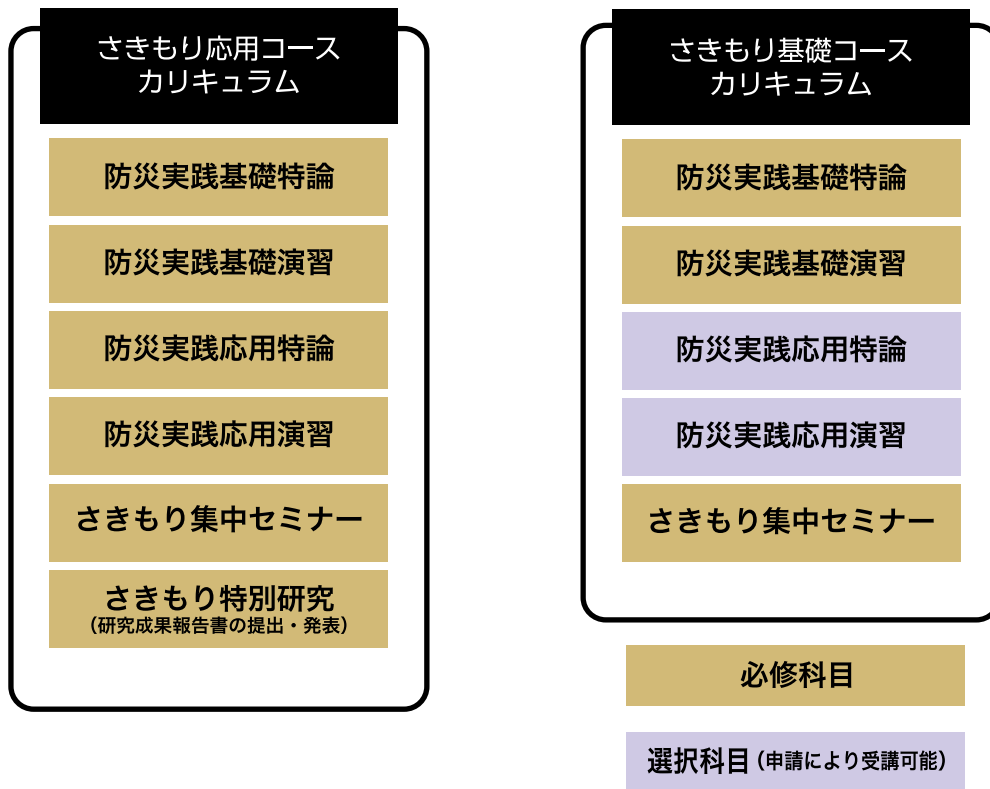


図1 カリキュラムの全体構成

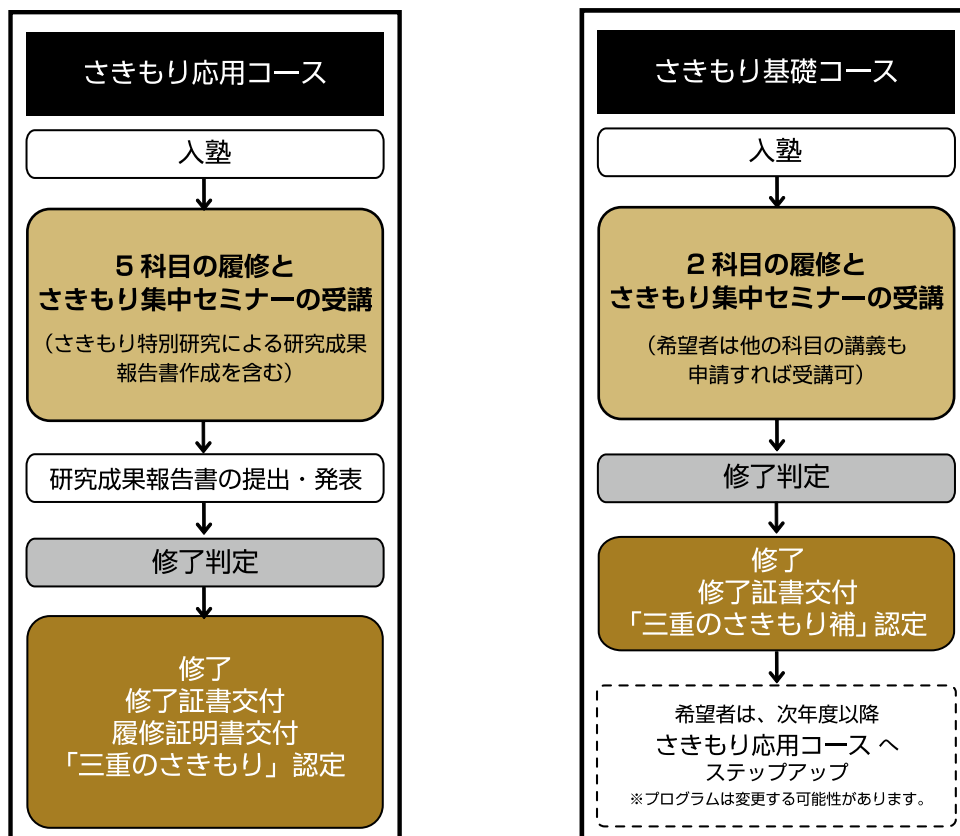


図2 入塾から修了までの流れ

2. 受講に係る留意事項

2.1 テキスト代等その他の費用

受講生が授業で使用するテキストの代金及び授業に係るその他の費用は、受講生の負担となります。

2.2 休講及び教室変更

授業担当教員のやむを得ない事情等により、開講日、時限、教室を変更したり、講義を取り止めたりする（休講）場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

なお、休講については、入塾の際に、調書に記入いただいた緊急連絡先（メール又は携帯電話）に連絡させていただきます。

暴風警報・大雨警報時等の措置

三重県北部又は中部区域のいずれかの市町※1に、特別警報※2、暴風警報、暴風雪警報、伊勢湾に大津波警報、津波警報のいずれかが発表された場合の授業（成果報告会含む）（以下授業等と表記）は休講とする。ただし、これらの警報が解除された場合は次のとおり取り扱うものとする。

- (1) 発表された特別警報、暴風警報、暴風雪警報、大津波警報、津波警報のいずれかが午前6時までに解除されない場合は、午前の授業等を休講にする。
- (2) 発表された特別警報、暴風警報、暴風雪警報、大津波警報、津波警報のいずれかが午前10時までに解除されない場合は、午後の授業等を休講にする。

みえ防災塾長は、次の場合、センターに休講措置を指示するものとする。

- (1) 津市に大雨警報及び洪水警報が同時に発表され、本学周辺に洪水が発生又はそのおそれがある場合
- (2) 三重県北部又は中部区域のいずれかの市町に大雨警報及び洪水警報が同時に発表され、交通機関への影響により通学が困難である場合又はそのおそれがある場合
- (3) 三重県北部又は中部区域のいずれかの市町に大雪警報が発表され、交通機関への影響により通学が困難である場合又はそのおそれがある場合
- (4) 上記以外の場合において、授業等を実施することが困難であると予想される場合

交通スト又は悪天候等により通学困難な場合の取り扱いについて

- (1) 各講義担当教員は、交通スト又は悪天候等により通学困難な受講生が授業等を欠席した場合において、受講生の申し出に基づき、その受講生が通学不能であったと判断した時は、本人の不利益にならないよう配慮するものとする。

※1

「いずれかの市町」とは下記に示す市町

三重県北部区域: 桑名市、四日市市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、
木曽岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町
三重県中部区域: 津市、松阪市、多気町、明和町

※2

「特別警報」とは下記に示すもの

大雨・暴風・高潮・波浪・暴風雪・大雪の各特別警報

2.3 補講の方法

やむを得ない事情（急な公務や出張、病気等）で、欠席した授業について、補講を受けることにより、授業への出席と認める場合があります。

補講の方法は授業により異なります。詳しくはセンターにお問い合わせください。

2.4 呼び出し等

授業中その他、受講生への連絡や呼び出しには応じられません。

2.5 授業時の注意

- (1) 授業の途中での教室への入退室は、授業の妨げになりますのでご遠慮ください。
- (2) 授業中の飲食はご遠慮ください。また、授業中は携帯電話の電源をお切りください。
- (3) 受講にあたり、本学が行う教育及び研究に支障をきたさないよう努めていただくとともに、授業担当教員及び事務局職員の指示に従ってください。

2.6 受講の停止

受講生は、授業時の注意に違反し、又はふさわしくない言動等を行い、本学の秩序を乱した場合は、その者の受講を停止させることもあります。

なお、受講停止の場合であっても、既納の授業料・受講料は返還できません。

2.7 損害賠償

受講生は、故意又は重大な過失により本学の施設、設備等を滅失、損傷又は毀損した時は、速やかにセンターに届け出るとともに、これを原状に回復し、又はその損害を賠償することが求められます。

2.8 附属施設の利用

受講生は、大学の附属図書館や食堂等が利用できます。

2.9 通学方法

本学では、受講生の自動車通学は原則として禁止していますので、公共交通機関を利用してください（21 ページをご参照ください）。

2.10 休日等の校舎への立ち入り

開講日以外の土曜日、日曜日、祝日、夏季一斉休業日、臨時休業日、年末年始等は、校舎に立ち入ることはできません。

2.11 その他

- (1) 既納の検定料、入学料および授業料・受講料はいかなる事情があっても返還できません。
- (2) 通学定期や学割の使用はできません。

3. 教育課程表

3.1 さきもり応用コース、さきもり基礎コース 科目

表1 さきもり応用コース、さきもり基礎コース科目

授 業 科 目 名	担 当 教 員
防災実践基礎特論	平原和朗（京都大学）、水谷法美（名古屋大学）、立花義裕（生物資源学研究科）、花里利一（工学研究科）、酒井俊典（生物資源学研究科）、宮岡邦任（教育学部）、三重県防災対策部職員、三重県警察本部職員、津市消防本部職員
防災実践基礎演習	三宅諭（岩手大学）、中林一樹（明治大学）、浅野聡（工学研究科）、川本孝司（白塚小学校）、川口淳（工学研究科）、塚本明（人文学部）、津久井進（芦屋西宮市民法律事務所）、石井美恵子（東京医療保健大学）、武田多一（医学部附属病院）、菅原康雄（菅原動物病院）、南部美智代（災害ボランティアネットワーク鈴鹿）、国土交通省中部地方整備局職員、阿部寛之（山田町社会福祉協議会）、水木千春（地域圏防災・減災研究センター）
防災実践応用特論	三島直生（工学研究科）、市古太郎（首都大学東京）、葛葉泰久（生物資源学研究科）、瀧本浩一（山口大学）、川合一明（地域地震情報株式会社）、吉井博明（東京経済大学）、溝口明（医学系研究科）、浅沼邦洋（医学系研究科）、磯和勅子（医学系研究科）、浅野聡（工学研究科）
防災実践応用演習	三島直生（工学研究科）、市古太郎（首都大学東京）、山田孝（生物資源学研究科）、瀧本浩一（山口大学）、川合一明（地域地震情報株式会社）、吉井博明（東京経済大学）、田口修（医学系研究科）、丸山一男（医学系研究科）、磯和勅子（医学系研究科）、平松万由子（医学系研究科）、服部由佳（医学系研究科）、北川亜希子（医学系研究科）、浅野聡（工学研究科）、大野研（教養教育機構）、高田裕市（株式会社都市環境研究所）
さきもり集中セミナー	津地方気象台職員、飯田昌美（防災室）、奈良由美子（放送大学）、山本康史（みえ防災市民会議）、長谷川聡子（株式会社Will Staff）、浅海義治（氷見市役所）
さきもり特別研究	各指導教員

3.2 開講スケジュール

入学式は2017年4月15日、修了式は2018年3月17日に行います。
 授業は土曜日午後(13:00~18:00)の開講を基本とし、原則として、講義は

2017年4月					
日曜	午前	1時限	2時限	3時限	4時限
1 土					
2 日					
3 月					
4 火					
5 水					
6 木					
7 金					
8 土					
9 日					
10 月					
11 火					
12 水					
13 木					
14 金					
15 土	入学式 入学 ガイダンス	防災実践 基礎特論 第1回講義1	防災実践 基礎特論 第1回講義2	防災実践 基礎特論 第1回講義3	
16 日		平原和朗 (京都大学)	水谷法美 (名古屋大学)	立花義裕 (生物資源学 研究科)	
17 月					
18 火					
19 水					
20 木					
21 金					
22 土	さきもり 特別研究 第1回	防災実践 応用特論 第1回	防災実践 応用演習 第1回	防災実践 応用演習 第2回	
23 日		三島直生 (工学研究科)	三島直生 (工学研究科)	三島直生 (工学研究科)	
24 月					
25 火					
26 水					
27 木					
28 金					
29 土					
30 日					

2017年5月					
日曜	午前	1時限	2時限	3時限	4時限
1 月					
2 火					
3 水					
4 木					
5 金					
6 土					
7 日					
8 月					
9 火					
10 水					
11 木					
12 金					
13 土	さきもり 特別研究 第2回	防災実践 応用特論 第2回	防災実践 応用演習 第3回	防災実践 応用演習 第4回	
14 日		葛葉泰久 (生物資源学 研究科)	山田孝 (生物資源学 研究科)	山田孝 (生物資源学 研究科)	
15 月					
16 火					
17 水					
18 木					
19 金					
20 土					
21 日					
22 月					
23 火					
24 水					
25 木					
26 金					
27 土		防災実践 基礎特論 第2回講義4	防災実践 基礎特論 第2回講義5	防災実践 基礎特論 第2回講義6	
28 日		宮岡邦任 (教育学部)	酒井俊典 (生物資源学 研究科)	花里利一 (工学研究科)	
29 月					
30 火					
31 水					

2017年6月					
日曜	午前	1時限	2時限	3時限	4時限
1 木					
2 金					
3 土		防災実践 基礎特論 第3回講義7	防災実践 基礎特論 第3回講義8	防災実践 基礎特論 第3回講義9	
4 日		三重県 (防災対策部)	三重県 警察本部	津市 消防本部	
5 月					
6 火					
7 水					
8 木					
9 金					
10 土		研究成果公開シンポジウム (予定)			
11 日					
12 月					
13 火					
14 水					
15 木					
16 金					
17 土	さきもり 特別研究 第3回	防災実践 応用特論 第3回	防災実践 応用演習 第5回	防災実践 応用演習 第6回	
18 日		市古太郎 (首都大学東京)	市古太郎 (首都大学東京)	市古太郎 (首都大学東京)	
19 月					
20 火					
21 水					
22 木					
23 金					
24 土					
25 日					
26 月					
27 火					
28 水					
29 木					
30 金					

工学部にて行いますが、さきもり集中セミナーは環境・情報科学館 (MEIPL) で行います。

2017年7月					
日曜	午前	1時限	2時限	3時限	4時限
1 土	さきもり特別研究第4回	防災実践応用特論第4回	防災実践応用演習第7回	防災実践応用演習第8回	
2 日		瀧本浩一(山口大学)	瀧本浩一(山口大学)	瀧本浩一(山口大学)	
3 月					
4 火					
5 水					
6 木					
7 金					
8 土					
9 日					
10 月					
11 火					
12 水					
13 木					
14 金					
15 土		防災実践基礎演習第1回演習1	防災実践基礎演習第1回演習2	防災実践基礎演習第1回演習3	
16 日		三宅諭(岩手大学)	中林一樹(明治大学)	浅野聡(工学研究科)	
17 月				三宅諭(岩手大学)	
18 火				中林一樹(明治大学)	
19 水				水木千春(地域圏防災・減災研究センター)	
20 木					
21 金					
22 土					
23 日					
24 月					
25 火					
26 水					
27 木					
28 金					
29 土	さきもり特別研究第5回	防災実践応用特論第5回	防災実践応用演習第9回	防災実践応用演習第10回	
30 日		川合一明(地域地震情報)	川合一明(地域地震情報)	川合一明(地域地震情報)	
31 月					

2017年8月					
日曜	午前	1時限	2時限	3時限	4時限
1 火					
2 水					
3 木					
4 金					
5 土	さきもり集中セミナー第1回講義1	さきもり集中セミナー第1回講義2	さきもり集中セミナー第1回講義3	さきもり集中セミナー第1回講義4	
6 日	津地方気象台	飯田昌美(防災室)	奈良由美子(放送大学)	山本康史(みえ防災市民会議)	
7 月					
8 火					
9 水					
10 木					
11 金					
12 土					
13 日					
14 月					
15 火					
16 水					
17 木					
18 金					
19 土		さきもり集中セミナー第2回講義1	さきもり集中セミナー第2回講義2	さきもり集中セミナー第2回講義3	
20 日		長谷川聡子(Will Staff)	長谷川聡子(Will Staff)	長谷川聡子(Will Staff)	
21 月					
22 火					
23 水					
24 木					
25 金					
26 土					
27 日					
28 月					
29 月					
30 火					
31 水					

2017年9月					
日曜	午前	1時限	2時限	3時限	4時限
1 金					
2 土					
3 日					
4 月					
5 火					
6 水					
7 木					
8 金					
9 土	さきもり特別研究集中セミナー	さきもり集中セミナー第3回講義1	さきもり集中セミナー第3回講義2	さきもり集中セミナー第3回講義3	
10 日		浅海義治(水見市役所)	浅海義治(水見市役所)	浅海義治(水見市役所)	
11 月					
12 火					
13 水					
14 木					
15 金					
16 土					
17 日					
18 月					
19 火					
20 水					
21 木					
22 金					
23 土					
24 日					
25 月					
26 火					
27 水					
28 木					
29 金					
30 土	さきもり特別研究第6回	防災実践応用特論第6回	防災実践応用演習第11回	防災実践応用演習第12回	
		溝口明 淺沼邦洋(医学系研究科)	田口修(医学系研究科)	丸山一男(医学系研究科)	

2017年10月					
日曜	午前	1時限	2時限	3時限	4時限
1	日				
2	月				
3	火				
4	水				
5	木				
6	金				
7	土	中間報告会 (さきもり特別研究 第7回、第8回)	防災実践 基礎演習 第2回演習4	防災実践 基礎演習 第2回演習5	防災実践 基礎演習 第2回演習6
8	日	川本孝司 (白塚小学校)	川口淳 (工学研究科)	川口淳 (工学研究科)	
9	月			水木千春 (地域圏防災・減災 研究センター)	
10	火				
11	水				
12	木				
13	金				
14	土		防災実践 基礎演習 第3回演習7	防災実践 基礎演習 第3回演習8	防災実践 基礎演習 第3回演習9
15	日	塚本明 (人文学部)	津久井進 (芦屋西宮市民 法律事務所)	塚本明 (人文学部)	
16	月			水木千春 (地域圏防災・減災 研究センター)	
17	火				
18	水				
19	木				
20	金				
21	土	さきもり 特別研究 第9回	防災実践 応用特論 第7回	防災実践 応用演習 第13回	防災実践 応用演習 第14回
22	日	吉井博明 (東京経済大学)	吉井博明 (東京経済大学)	吉井博明 (東京経済大学)	
23	月				
24	火				
25	水				
26	木				
27	金				
28	土				
29	日				
30	月				
31	火				

2017年11月					
日曜	午前	1時限	2時限	3時限	4時限
1	水				
2	木				
3	金				
4	土	さきもり 特別研究 (予備日)	講義 予備日	講義 予備日	講義 予備日
5	日				
6	月				
7	火				
8	水				
9	木				
10	金				
11	土	さきもり 特別研究 第10回	防災実践 基礎演習 第4回演習10	防災実践 基礎演習 第4回演習11	防災実践 基礎演習 第4回演習12
12	日	石井美恵子 (東京医療 保健大学)	武田多一 (医学部附属 病院)	武田多一 (医学部附属 病院)	
13	月			水木千春 (地域圏防災・減災 研究センター)	
14	火				
15	水				
16	木				
17	金				
18	土	さきもり 特別研究 (予備日)	講義 予備日	講義 予備日	講義 予備日
19	日				
20	月				
21	火				
22	水				
23	木				
24	金				
25	土				
26	日				
27	月				
28	火				
29	水				
30	木				

2017年12月					
日曜	午前	1時限	2時限	3時限	4時限
1	金				
2	土		防災実践 基礎演習 第5回演習13	防災実践 基礎演習 第5回演習14	防災実践 基礎演習 第5回演習15
3	日	菅原康雄 (菅原動物 病院)	南部美智代 (災害ボランティア ネットワーク鈴鹿)	川口淳 (工学研究科)	
4	月			菅原康雄 (菅原動物 病院)	
5	火			南部美智代 (災害ボランティア ネットワーク鈴鹿)	
6	水			水木千春 (地域圏防災・減災 研究センター)	
7	木				
8	金				
9	土				
10	日				
11	月				
12	火				
13	水				
14	木				
15	金				
16	土	さきもり 特別研究 第11回	防災実践 応用特論 第8回	防災実践 応用演習 第15回	防災実践 応用演習 第16回
17	日	磯和勅子 (医学系研究科)	服部由佳 (医学系研究科)	平松万由子 北川亜希子 (医学系研究科)	
18	月				
19	火				
20	水				
21	木				
22	金				
23	土				
24	日				
25	月				
26	火				
27	水				
28	木				
29	金				
30	土				
31	日				

2018年1月

日曜	午前	1時限	2時限	3時限	4時限
1	月				
2	火				
3	水				
4	木				
5	金				
6	土	さきもり特別研究第12回	防災実践基礎演習第6回演習16	防災実践基礎演習第6回演習17	防災実践基礎演習第6回演習18
7	日		国土交通省中部地方整備局	阿部寛之(山田町社会福祉協議会)	浅野聡(工学研究科)
8	月				水木千春(地域圏防災・減災研究センター)
9	火				
10	水				
11	木				
12	金				
13	土				
14	日				
15	月				
16	火				
17	水				
18	木				
19	金				
20	土	さきもり特別研究第13回	防災実践応用特論第9回	防災実践応用演習第17回	防災実践応用演習第18回
21	日		浅野聡(工学研究科)	浅野聡(工学研究科)	浅野聡(工学研究科)
22	月		大野研(教養教育機構)	大野研(教養教育機構)	大野研(教養教育機構)
23	火		高田裕市(都市環境研究所)	高田裕市(都市環境研究所)	高田裕市(都市環境研究所)
24	水				
25	木				
26	金				
27	土				
28	日				
29	月				
30	火				
31	水				

2018年2月

日曜	午前	1時限	2時限	3時限	4時限
1	木				
2	金				
3	土	研究成果報告会(さきもり特別研究第14回、第15回)			
4	日				
5	月				
6	火				
7	水				
8	木				
9	金				
10	土				
11	日				
12	月				
13	火				
14	水				
15	木				
16	金				
17	土				
18	日				
19	月				
20	火				
21	水				
22	木				
23	金				
24	土				
25	日				
26	月				
27	火				
28	水				

2018年3月

日曜	午前	1時限	2時限	3時限	4時限
1	木				
2	金				
3	土				
4	日				
5	月				
6	火				
7	水				
8	木				
9	金				
10	土				
11	日				
12	月				
13	火				
14	水				
15	木				
16	金				
17	土	修了式 修了証書授与			
18	日				
19	月				
20	火				
21	水				
22	木				
23	金				
24	土				
25	日				
26	月				
27	火				
28	水				
29	木				
30	金				
31	土				

4. 教授要目

防災実践基礎特論

防災実践基礎演習

防災実践応用特論

防災実践応用演習

さきもり集中セミナー

さきもり特別研究

防災実践基礎特論

学期：通年 対象：さきもり応用コース、さきもり基礎コース 授業種別：講義

キーワード・テーマ：レジリエンスの視点からみた防災活動の実践の基礎（ハザードのメカニズム、災害に備えたハードウェア対策、行政機関による災害対応活動）

授業の目的・概要：レジリエンスの視点からみた防災活動の実践の基礎（ハザードのメカニズム、災害に備えたハードウェア対策、行政機関による災害対応活動）における近年の研究成果や技術開発の状況、特徴的な実例を題材として取り上げ、現状の到達点、成果と課題を解説する。

学生の到達目標：レジリエンスの視点からみた防災活動の実践の基礎における近年の研究成果や技術開発の状況、特徴的な実例を題材として取り上げ、現状の到達点、成果と課題に関して理解を深め説明できる。

受講要件：特になし。

教科書・参考書：指定しない。講義中にプリントを配布する。

成績評価方法と基準：講義全9回の中7回以上（70%以上）の出席者を成績評価の対象とする。レポート（100点）の結果に基づき、60点以上の者を合格とする。

オフィスアワー：問い合わせはEメールにて各講義を担当する三重大学教員まで。

・水木千春（mizkichi@crc.mie-u.ac.jp）

・みえ防災・減災センター（center@dimomie-u.ac.jp）

授業計画・学習の内容と課題

授業の時間割：

- ・ 講義1（85分）
- ・ 質疑応答（5分）
- ・ 休憩 10分
- ・ 講義2（85分）
- ・ 質疑応答（5分）
- ・ 休憩 10分
- ・ 講義3（85分）
- ・ 質疑応答（5分）
- ・ 達成度テスト、レポート（10分）

学習内容

- ・ 第1回 ハザードのメカニズム

講義1：地震のメカニズム	平原和朗（京都大学）
講義2：津波のメカニズム	水谷法美（名古屋大学）
講義3：異常気象のメカニズム	立花義裕（生物資源学研究科）
- ・ 第2回 災害に備えたハードウェア対策

講義4：自然災害対策にみるレジリエンス	宮岡邦任（教育学部）
講義5：地盤の災害対策	酒井俊典（生物資源学研究科）
講義6：建築物の災害対策	花里利一（工学研究科）
- ・ 第3回 行政機関による災害対応活動

講義7：行政の事前対応と災害対策活動の現状と課題	三重県防災対策部職員
講義8：警察の対応活動の現状と課題	三重県警察本部職員
講義9：消防の対応活動の現状と課題	津市消防本部職員

学習課題 予習・復習

各教員が講義中にレポートを出題する。各講義中に配布したプリントを再読し、解説したポイントを確認する。

防災実践基礎演習

学期：通年 対象：さきもり応用コース、さきもり基礎コース 授業種別：演習

キーワード・テーマ：レジリエンスの視点からみた防災活動の実践の基礎（防災まちづくりと東日本大震災後の課題、防災教育と意識啓発、被災者支援、日本における災害と防災関連制度、災害に備える地域力、災害復旧と復興・被災者支援）

授業の目的・概要：レジリエンスの視点からみた防災活動の実践の基礎（防災まちづくりと東日本大震災後の課題、防災教育と意識啓発、被災者支援、日本における災害と防災関連制度、災害に備える地域力、災害復旧と復興・被災者支援）における近年の研究成果や技術開発の状況、特徴的な実例を題材として取り上げ、現状の到達点、成果と課題を解説する。講義内容を踏まえて、受講生、講師の間で議論し、取り上げたテーマに関する理解を深める。

学生の到達目標：レジリエンスの視点からみた防災活動の実践の基礎における近年の研究成果や技術開発の状況、特徴的な実例を題材として取り上げ、現状の到達点、成果と課題に関して理解を深め説明できる。

受講要件：特になし。

教科書・参考書：指定しない。講義中にプリントを配布する。

成績評価方法と基準：演習全 18 回の中 13 回以上（70%以上）の出席者を成績評価の対象とする。レポート（100 点）の結果に基づき、60 点以上の者を合格とする。

オフィスアワー：問い合わせは E メールにて各講義を担当する三重大学教員まで。

・水木千春（mizkichi@crc.mie-u.ac.jp）

・みえ防災・減災センター（center@dimo.mie-u.ac.jp）

授業計画・学習の内容と課題

授業の時間割：

- ・演習 1（85 分）
- ・質疑応答（5 分）
- ・休憩 10 分
- ・演習 2（85 分）
- ・質疑応答（5 分）
- ・休憩 10 分
- ・演習 3（50 分）
- ・発表（10 分）
- ・達成度テスト、レポート（20 分）

学習内容

- ・第 1 回 防災まちづくりと東日本大震災後の課題
 - 演習 1：東日本大震災の復興の課題 三宅 諭（岩手大学）
 - 演習 2：復興まちづくり 中林一樹（明治大学）
 - 演習 3：グループディスカッション 浅野 聡（工学研究科）
- ・第 2 回 防災教育と意識啓発
 - 演習 4：防災教育 川本孝司（白塚小学校）
 - 演習 5：意識啓発 川口 淳（工学研究科）
 - 演習 6：グループディスカッション 川口 淳（工学研究科）
- ・第 3 回 日本における災害と防災関連制度
 - 演習 7：災害史 塚本 明（人文学部）
 - 演習 8：防災関連制度の変遷 津久井進（芦屋西宮市民法律事務所）
 - 演習 9：グループディスカッション 塚本 明（人文学部）
- ・第 4 回 被災者支援
 - 演習 10：被災者のメンタルケア・ヘルスケア 石井美恵子（東京医療保健大学）
 - 演習 11：被災地における保健・医療・介護・福祉 武田多一（医学部附属病院）
 - 演習 12：グループディスカッション 武田多一（医学部附属病院）
- ・第 5 回 災害に備える地域力
 - 演習 13：自助・共助の先進事例 菅原康雄（菅原動物病院）
 - 演習 14：地域の対応行動 南部美智代（NPO 法人災害ボランティアネットワーク鈴鹿）
 - 演習 15：グループディスカッション 川口 淳（工学研究科）
- ・第 6 回 災害復旧と復興・被災者支援
 - 演習 16：東海地方の復興対策の展望 国土交通省中部地方整備局職員
 - 演習 17：被災地の行政職員の支援の課題 阿部寛之（社会福祉法人山田町社会福祉協議会）
 - 演習 18：グループディスカッション 浅野 聡（工学研究科）

学習課題 予習・復習

各教員が講義中にレポートを出題する。各講義中に配布したプリントを再読し、解説したポイントを確認する。

※ 第 1 回 防災まちづくりと東日本大震災後の課題 は 7 月 15 日に開講予定です。

防災実践応用特論

学期：通年 対象：さきもり応用コース（さきもり基礎コースの希望者は申請により受講可） 授業種別：講義

キーワード・テーマ：レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための各種計画（地震対策、風水害対策、企業の対応行動、災害医療体制、防災まちづくり）の策定および地域の現場での実践手法（タウンウォッチング、災害図上訓練、HUG、災害時要援護者）

授業の目的・概要：レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための各種計画（地震対策、風水害対策、企業の対応行動、災害医療体制、防災まちづくり）の策定および地域の現場での実践手法（タウンウォッチング、災害図上訓練、HUG、災害時要援護者）について、必要な専門基礎知識や特徴的な実例を解説する。

学生の到達目標：レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための各種計画の策定および地域の現場での実践手法について、必要な専門基礎知識や特徴的な実例への理解を深め、説明できる。

受講要件：特になし。

教科書・参考書：指定しない。講義中にプリントを配布する。

成績評価方法と基準：講義全9回の中7回以上（70%以上）の出席者を成績評価の対象とする。レポート（100点）の結果に基づき、60点以上の者を合格とする。

オフィスアワー：問い合わせはEメールにて各講義を担当する三重大学教員まで。

・水木千春（mizkichi@crc.mie-u.ac.jp）

・みえ防災・減災センター（center@dimo.mie-u.ac.jp）

授業計画・学習の内容と課題

授業の時間割：

- ・講義1（85分）
- ・質疑応答（5分）

学習内容

- | | |
|----------------------------|-----------------------------------------------|
| ・第1回 地震対策の計画 | 三島直生（工学研究科） |
| ・第2回 風水害対策の計画 | 葛葉泰久（生物資源学研究科） |
| ・第3回 現場で使える実践手法（タウンウォッチング） | 市古太郎（首都大学東京） |
| ・第4回 現場で使える実践手法（災害図上訓練） | 瀧本浩一（山口大学） |
| ・第5回 企業の対応行動の計画 | 川合一明（地域地震情報株式会社） |
| ・第6回 災害医療体制の計画 | 溝口 明（医学系研究科）、浅沼邦洋（医学系研究科） |
| ・第7回 現場で使える実践手法（HUG） | 吉井博明（東京経済大学） |
| ・第8回 現場で使える実践手法（災害時要援護者） | 磯和勅子（医学系研究科） |
| ・第9回 防災まちづくりの計画 | 浅野 聡（工学研究科）、大野 研（教養教育機構）
高田裕市（株式会社都市環境研究所） |

学習課題 予習・復習

各教員が講義中にレポートを出題する。各講義中に配布したプリントを再読し、解説したポイントを確認する。

※ 第1回 地震対策の計画は21番教室にて開講予定です。

防災実践応用演習

学期：通年 対象：さきもり応用コース（さきもり基礎コースの希望者は申請により受講可） 授業種別：演習

キーワード・テーマ：レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための各種計画（地震対策、土砂災害対策、企業の対応行動、災害医療体制、防災まちづくり）の策定および地域の現場での実践手法（タウンウォッチング、災害図上訓練、HUG、災害時要援護者）

授業の目的・概要：レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための各種計画（地震対策、土砂災害対策、企業の対応行動、災害医療体制、防災まちづくり）の策定および地域の現場での実践手法（タウンウォッチング、災害図上訓練、HUG、災害時要援護者）について、演習課題を通じて計画策定の基本的な考え方や策定手法、実践手法の基礎を修得する。

学生の到達目標：レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための各種計画の策定および地域の現場での実践手法について、演習課題を通じて計画策定の基本的な考え方や策定手法、実践手法の基礎への理解を深め、説明できる。

受講要件：特になし。

教科書・参考書：指定しない。講義中にプリントを配布する。

成績評価方法と基準：講義全 18 回の中 13 回以上（70%以上）の出席者を成績評価の対象とする。レポート（100点）の結果に基づき、60 点以上の者を合格とする。

オフィスアワー：問い合わせは E メールにて各講義を担当する三重大学教員まで。

・水木千春（mizkichi@crc.mie-u.ac.jp）

・みえ防災・減災センター（center@dimomie-u.ac.jp）

授業計画・学習の内容と課題

授業の時間割：

- ・演習 2（85 分）
- ・質疑応答（5 分）
- ・休憩 10 分
- ・演習 3（85 分）
- ・質疑応答（5 分）
- ・達成度テスト、レポート（10 分）

学習内容

- | | | |
|---------|----------------------------------|---------------------------|
| ・第 1 回 | 地震対策の計画 | 三島直生（工学研究科） |
| ・第 2 回 | 地震対策の計画 | 三島直生（工学研究科） |
| ・第 3 回 | 土砂災害対策の計画 | 山田 孝（生物資源学研究科） |
| ・第 4 回 | 土砂災害対策の計画 | 山田 孝（生物資源学研究科） |
| ・第 5 回 | 現場で使える実践手法（タウンウォッチング・ワークショップ） | 市古太郎（首都大学東京） |
| ・第 6 回 | 現場で使える実践手法（タウンウォッチング・ワークショップ） | 市古太郎（首都大学東京） |
| ・第 7 回 | 現場で使える実践手法（災害図上訓練・ワークショップ） | 瀧本浩一（山口大学） |
| ・第 8 回 | 現場で使える実践手法（災害図上訓練・ワークショップ） | 瀧本浩一（山口大学） |
| ・第 9 回 | 企業の対応行動の計画（ワークショップ） | 川合一明（地域地震情報株式会社） |
| ・第 10 回 | 企業の対応行動の計画（ワークショップ） | 川合一明（地域地震情報株式会社） |
| ・第 11 回 | 災害医療体制の計画 | 田口 修（医学系研究科）、 |
| ・第 12 回 | 災害医療体制の計画 | 丸山一男（医学系研究科） |
| ・第 13 回 | 現場で使える実践手法（HUG・ワークショップ） | 吉井博明（東京経済大学） |
| ・第 14 回 | 現場で使える実践手法（HUG・ワークショップ） | 吉井博明（東京経済大学） |
| ・第 15 回 | 現場で使える実践手法（災害時要援護者・グループディスカッション） | 平松万由子（医学系研究科） |
| ・第 16 回 | 現場で使える実践手法（災害時要援護者・グループディスカッション） | 服部由佳（医学系研究科）、 |
| | | 北川亜希子（医学系研究科） |
| ・第 17 回 | 防災まちづくりの計画（ワークショップ） | 浅野 聡（工学研究科）、大野 研（教養教育機構） |
| ・第 18 回 | 防災まちづくりの計画（ワークショップ） | 高田裕市（株式会社都市環境研究所） |
| | | 浅野 聡（工学研究科）、大野 研（教養教育機構）、 |
| | | 高田裕市（株式会社都市環境研究所） |

学習課題 予習・復習

各教員が講義中にレポートを出題する。各講義中に配布したプリントを再読し、解説したポイントを確認する。

※ 第 1 回 地震対策の計画は 21 番教室にて開講予定です。

さきもり集中セミナー

学期：夏期 対象：さきもり応用コース、さきもり基礎コース 授業種別：講義・演習

キーワード・テーマ：レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための各種計画の策定および地域の現場での実践手法（地域での対応行動、コミュニケーションの基本と実践、ファシリテーションの基本と実践）

授業の目的・概要：レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための各種計画の策定および地域の現場での実践手法について、必要な専門基礎知識や特徴的な実例のうち、3つのテーマについて集中して解説する。

学生の到達目標：レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための各種計画の策定および地域の現場での実践手法への理解を深め、説明できる。

受講要件：特になし。

教科書・参考書：指定しない。講義中にプリントを配布する。**成績評価方法と基準：**講義全10回の中7回以上(70%以上)の出席者を成績評価の対象とする。レポート(100点)の結果に基づき、60点以上の者を合格とする。

オフィスアワー：問い合わせはEメールにて各講義を担当する三重大学教員まで。

・水木千春 (mizkichi@crc.mie-u.ac.jp)

・みえ防災・減災センター (center@dimomie-u.ac.jp)

授業計画・学習の内容と課題

授業の時間割：

- ・講義1 (85分)
- ・質疑応答 (5分)
- ・講義2 (85分)
- ・質疑応答 (5分)
- ・休憩 10分
- ・講義3 (85分)
- ・質疑応答 (5分)
- ・達成度テスト、レポート (10分)

第1回さきもり集中セミナー時間割：

- ・講義1 (85分)
- ・質疑応答 (5分)
- ・昼休み 60分
- ・講義2 (85分)
- ・質疑応答 (5分)
- ・講義3 (85分)
- ・質疑応答 (5分)
- ・休憩 10分
- ・講義4 (85分)
- ・質疑応答 (5分)
- ・達成度テスト、レポート (10分)

学習内容

- ・第1回 地域との連携（防災情報の発信と活用）
- ・第1回 地域との連携（訓練）
- ・第1回 地域との連携（リスクマネジメント）
- ・第1回 地域との連携（災害ボランティア活動）
- ・第2回 コミュニケーションの基本と実践
- ・第2回 コミュニケーション（ワークショップ）
- ・第2回 コミュニケーション（ワークショップ）
- ・第3回 ファシリテーションの基本と実践
- ・第3回 ファシリテーション（ワークショップ）
- ・第3回 ファシリテーション（ワークショップ）

- 津地方気象台職員
- 飯田昌美（防災室）
- 奈良由美子（放送大学）
- 山本康史（NPO 法人みえ防災市民会議）
- 長谷川聡子（株式会社 Will Staff）
- 長谷川聡子（株式会社 Will Staff）
- 長谷川聡子（株式会社 Will Staff）
- 浅海義治（氷見市役所）
- 浅海義治（氷見市役所）
- 浅海義治（氷見市役所）

学習課題 予習・復習

各教員が講義中にレポートを出題する。各講義中に配布したプリントを再読し、解説したポイントを確認する。

※ 第1回 地域との連携は10時30分開講予定です。

さきもり特別研究

学期：通年 対象：さきもり応用コース 授業種別：講義・演習・実習

キーワード・テーマ：特別研究

授業の目的・概要：防災計画あるいは実践に関する研究テーマを受講生自ら設定し、指導教員の指導のもとで、調査研究の方法、研究成果報告書の編集方法や発表方法を学習しながら研究成果報告書の作成に取り組み、レジリエンスの視点からみた防災・減災分野の課題発見と課題解決のための基礎的能力を修得する。

学生の到達目標：特別研究を通して、設定した研究目標を達成するために必要な論理的思考、研究成果報告書の編集や発表・討論する能力や技術を習得する。

受講要件：特になし。

教科書・参考書：指定しない。

成績評価方法と基準：研究に対する取り組み姿勢、制作過程、研究成果報告会における発表と討論・研究成果報告書を100点満点で評価し、60点以上の者を合格とする。

オフィスアワー：問い合わせはEメールにて各講義を担当する三重大学教員まで。

- ・畑中重光 (hatanaka@arch.mie-u.ac.jp)
- ・宮岡邦任 (miyaoka@edu.mie-u.ac.jp)
- ・葛葉泰久 (kuzuha@bio.mie-u.ac.jp)
- ・浅野 聡 (asano@arch.mie-u.ac.jp)
- ・川口 淳 (jkawa@arch.mie-u.ac.jp)
- ・水木千春 (mizkichi@crc.mie-u.ac.jp)
- ・みえ防災・減災センター (center@dimio.mie-u.ac.jp)

授業計画・学習の内容と課題

授業の時間割：

- ・通常 (120分)
- ・中間報告 (120分 休憩含む)
- ・研究成果報告会 (240分程度 休憩含む)

学習内容

- ・第1回 研究指導ゼミ (研究テーマの整理とグループ分け)
- ・第2回 研究指導ゼミ (研究テーマとグループの決定、研究成果報告書作成のガイダンス)
- ・第3回 研究指導ゼミ (グループ別指導)
- ・第4回 研究指導ゼミ (グループ別指導)
- ・第5回 研究指導ゼミ (グループ別指導)
- ・さきもり特別集中セミナー (グループ別指導)
- ・第6回 研究指導ゼミ (グループ別指導)
- ・第7回 中間報告会
- ・第8回 中間報告会
- ・第9回 研究指導ゼミ (グループ別指導)
- ・第10回 研究指導ゼミ (グループ別指導)
- ・第11回 研究指導ゼミ (グループ別指導)
- ・第12回 研究指導ゼミ (グループ別指導)
- ・第13回 研究指導ゼミ (グループ別指導、発表練習)
- ・第14回 研究成果報告会
- ・第15回 研究成果報告会

学習課題 予習・復習

- <予習>論文作成過程の各段階において前段階の内容を確認し、次の段階に必要な作業を予測して準備する。
設定した研究テーマに応じて、研究対象地域における現地調査、文献調査、関係者へのヒアリング調査などを実施する。
- <復習>論文作成課程の各段階終了後に、内容を確認する。

みえ防災塾の津波発令時の避難方法について（平成27年10月1日）

1. 津波警報時の種類と津波避難方法について

「みえ防災塾」開講時に津波避難警報が発令された場合の避難方法および避難先を定める。

表-1 みえ防災塾の津波発令時の避難行動基準

津波警報・注意報の分類	予想される津波の高さ発令基準	表現	津市災害対策本部の避難勧告・指示等	みえ防災塾の避難行動	
				時間内	学外避難
大津波警報	10m 超 10m 5m	巨大	避難指示（緊急）	時間内	学外避難
				休日等	学外避難
津波警報	3m	高い	避難勧告	時間内	学内避難
				休日等	学外避難
津波注意報	1m	表記しない	無し	学内待機	
警報なし (強い揺れ： 震度5強以上)			無し	学内待機	
警報なし (長時間ゆっくりした揺れ)			無し	学内待機	

2. 津波避難実施要領

(1) 津波避難指示などの発令

気象庁から津波警報（津波警報、大津波警報）が発令された場合の避難行動は、津波警報・注意報の分類に応じ、表-1に示すものとする。

学外の避難場所又は、学内の最寄校舎棟（5階以上）に避難を実施する。

(2) 津波避難先及びルート

①津波警報および大津波警報発令時の学外避難先は、三重県総合文化センターとする。

避難ルートは図-1を基本とするが、避難ルートの被害状況に応じ臨機応変に対応する。

②負傷者により学外避難が困難な場合、新江戸橋橋梁が損壊し橋梁通過が困難な場合、市街地が通行障害等により学外避難ができない場合は学内の所在棟の5階以上に避難を行う。

③学内避難の避難先は所在棟の5階以上とするが、所在等に5階以上がない場合の避難先は次の通りとする。また避難先を右ページの三重大学構内図に示す。

- ・工学部第一合同棟5階
- ・地域イノベーション研究開発拠点高層棟5階

●情報収集源

津市の防災行政無線及び警鐘信号・サイレン信号、三重大学緊急放送システムの放送、電話、テレビ・ラジオ、必要に応じ目視等により情報収集を行う。

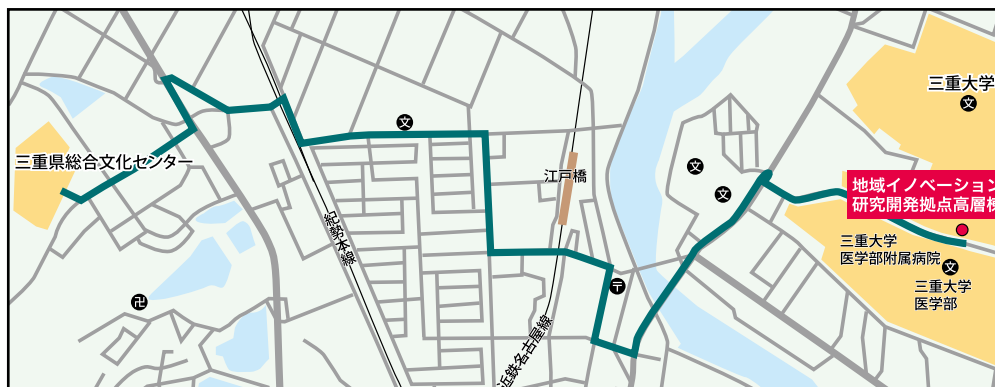
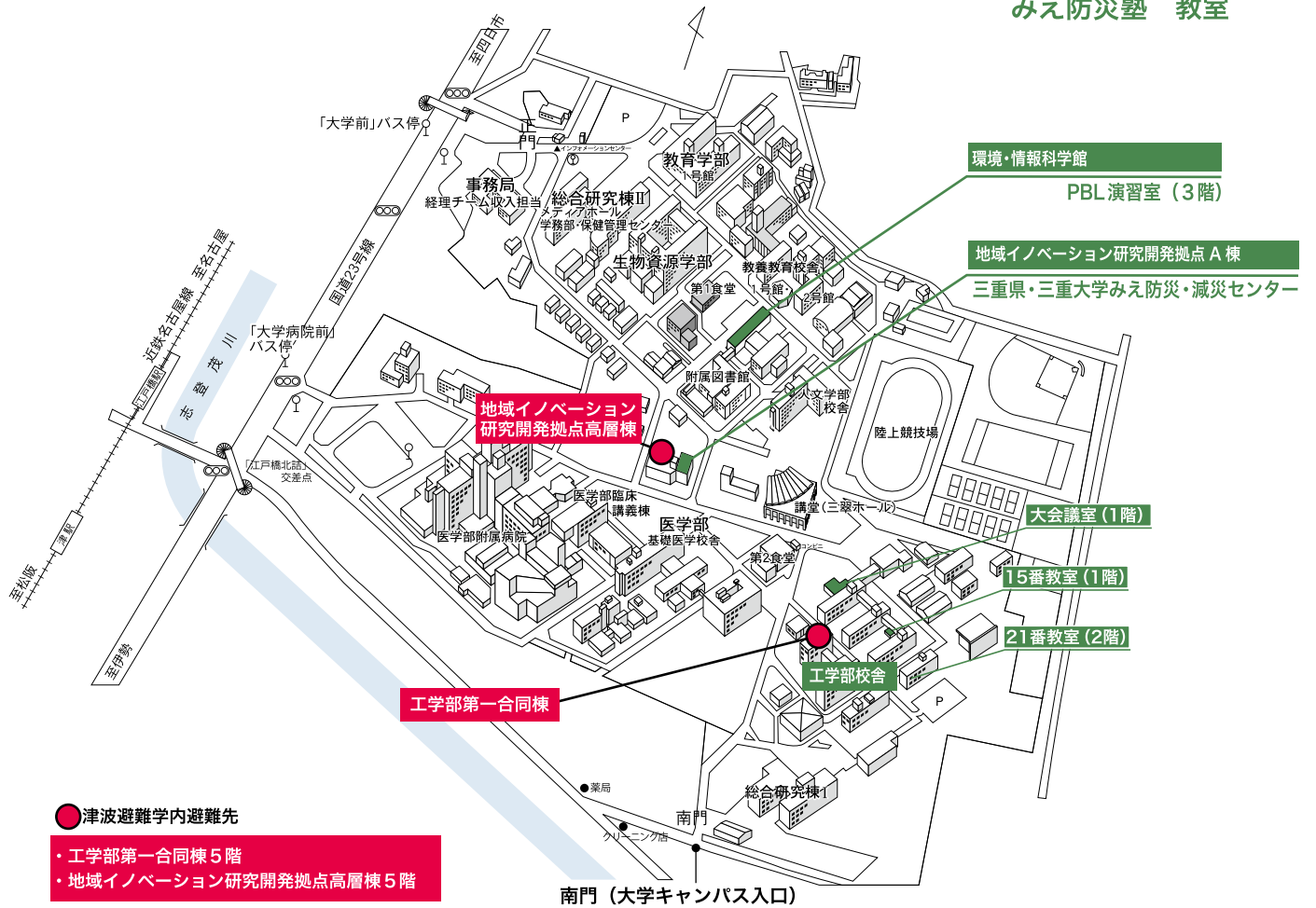


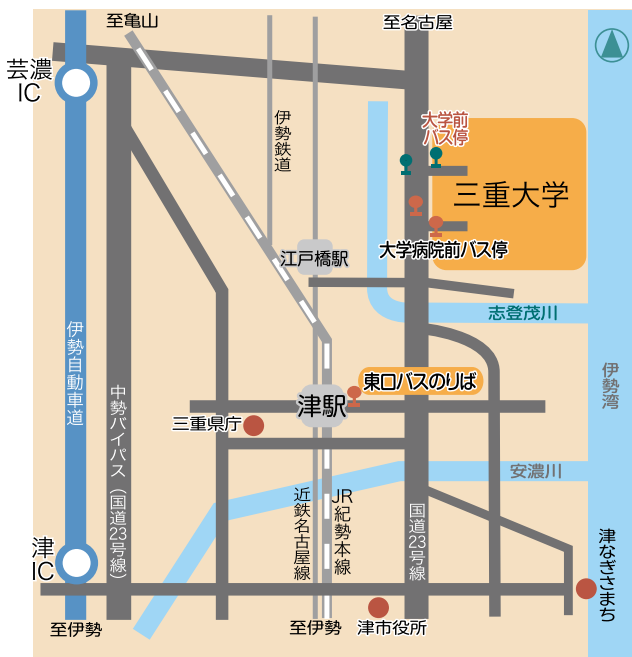
図-1 学外津波避難経路の例

三重大学構内図

みえ防災塾 教室



アクセス



●三重大学までの交通案内

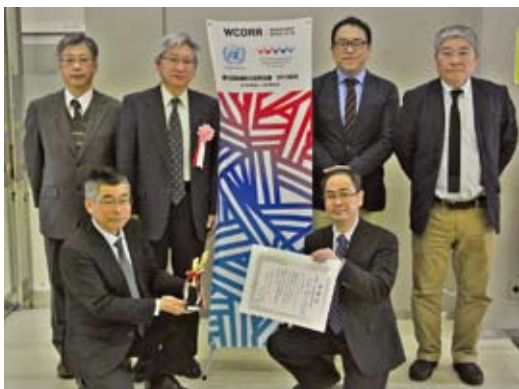
- ①近鉄江戸橋（三重大学前）駅下車 徒歩 約20分
- ②JR 東海又は近鉄津駅下車
津駅前バスのりば（津駅東口）
4番のりばから「三重交通路線バス」乗車
→ 大学病院前 下車 徒歩 約10分
乗車バスの行先
■「白塚駅前」■「太陽の街」■「三重病院」
■「棕本（むくもと）」■「豊里ネオポリス」
■「サイエンスシティ」
- ③津駅から タクシーで 約10分
- ④伊勢自動車道「津I.C.」から約20分
「芸濃I.C.」から約25分



ジャパン・レジリエンス・アワード2015(強靱化大賞)の 金賞(教育機関部門)を受賞!

平成27年3月15日(日)、仙台市市民会館で開かれた、レジリエンスジャパン推進協議会による「第一回ジャパン・レジリエンス・アワード2015(強靱化大賞)」に於いて、「みえ防災塾」の前身である「美(うま)し国おこし・三重さきもり塾」と、「美し国おこし・三重さきもり倶楽部」が、ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)の金賞を受賞しました。

内閣府が進める「国土強靱化基本計画」を産学官民のオールジャパンで推進することを目的に「一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会」が設立され、強靱化(レジリエンス)社会の構築に向けた取り組みとして「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)」が創設されました。三重大学が三重県、市町、企業、県民と協働して進めてきた「美し国おこし・三重さきもり塾」と「美し国おこし・三重さきもり倶楽部」による防災人材育成・実践プロジェクトを応募したところ、全国約200件の応募の中から大変に高い評価を受けて「金賞(教育機関部門)」を受賞することができました。表彰式は、国連防災世界会議の併催イベントとして仙台市で行われました。



受賞団体 / 美し国おこし・三重さきもり塾、
美し国おこし・三重さきもり倶楽部

受賞プロジェクト /
『さきもり塾』と『さきもり倶楽部』を両輪
とする地域実践型の防災人材育成および
防災コミュニティ形成プロジェクト

(レジリエンスジャパン推進協議会
HP「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)
2015」受賞団体・プロジェクト一覧より)



文部科学大臣認定「職業実践力育成プログラム」(BP)に採択!

本認定制度は、高等教育機関におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力育成プログラム」(BP)として文部科学大臣が認定するものです。

平成28年12月、みえ防災塾のプログラムが「職業実践力育成プログラム」(BP)として採択されました。

●プロジェクト認定について

URL : <http://www.mie-u.ac.jp/topics/university/2017/01/bp.html>

三重県・三重大学
みえ防災・減災センター

三重大学

三重県・三重大学 みえ防災・減災センター

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

三重大学地域イノベーション研究開発拠点

A棟3階306号室

TEL : 059-231-9952 FAX : 059-231-9954

Mail : center@dimo.mie-u.ac.jp